

## イースターを迎えるにあたって

渡邊明子



私たちは共に生きる  
神と共に  
イエスキリストと共に  
聖霊と共に  
私たちは共に重荷を背負う  
苦しむ者と共に  
隣人と共に  
自然や生き物と共に  
私たちは共に歩む  
信仰を持って  
希望を持って  
愛を持って  
私たちは共に働く  
教会の中で  
人々の中で  
世界の中で  
私たちは共に生きる  
神をたたえて  
罪ゆるされて  
不思議な力に助けられて



上記のお祈りは、農村伝道、農民運動に従事し、カナダの合同教会宣教師としてカナダの農村で暮らされた後、プロテスタント日本基督教団の牧師になられた星野正興牧師の書かれたもので、我々の友人の景山恭子さんがお祈りとして引用して読んで下さったものです。

どの言葉も心に深く染み入りましたが、特に最後の「不思議な力に助けられて」と聴いた時、「ああ、そうなのだ」と胸に響き、私の中の謎がストーンと解けた思いがしました。

まさにわたしの考えの及ばない不思議な力 聖霊のお働きとも言える力が、常にそばで spiritual power を与えていてくださるよう感じました。

昨年に引き続き今年も、世界では戦争、地震、貧困、そして犯罪などの思いもかけない悲しい出来事が起こっています。

さらに、長年暮らしたNYでも日本でも、親しい人々の訃報が続きました。

特に1月 若い命が天に召されたというお知らせは心が潰れる思いで受け止めました。夫を愛し、両親から慈しみを受け、兄とも親しくすごし、仕事も順調であった才能豊かな短かすぎる人生。ご本人は「まだまだ幸せに日々を送りたい。」と どんなに願っていたか、、、。残された方々の悲しみは深く、何故という問いは消えません。

イースターはイエス様の御復活のお祝い。そして長い冬の後の春のお祝い。新しく生まれ、また生まれ変わる全てのもののお祝いです。

しかし、こんなお祝いの時期にも辛いことがおこる現実。私の心は このように若い命が何故亡くならねばならないのかという疑問でいっぱいでした。勿論 神様からの直接回答はありません。

せめて、私ができることはご家族に寄り添い 思いを共にすることのみです。

そして、そんなふうに時間が流れていきました。

上記のお祈りにあるように、「私たちは共に重荷を背負う 苦しむものと共に 隣人と共に」でした。

そして今、お祈りの最後の言葉。「不思議な力に助けられ」とあるように 悲しみが、痛みが、怒りに似た疑問が、何か「大丈夫、いずれその時が来たらわかる」という気持ちに変わっていくように思っています。

理由が欲しい時は、聖霊の不思議な力に委ね、助けられ 神様のその目的が、いずれ明らかに、また理解ができる時まで、日々見守られて過ごしてゆこう。きっと大丈夫だから。いずれ疑問の答えは与えられると信じていこう。

私は今、「信仰を持って、希望を持って、愛を持って」生きてゆこうと考え、その意思を持ってイースターを迎えようと思っています。

#### <MJMTokyo 4月 zoom 例会のご案内>

4月の例会は植松功さんをお迎えして、テゼの祈りの会を下記の日程でいたします。

Zoom と併用ですので、皆様ご参加ください。

植松功さんとテゼの祈り

日時: 4月11日火曜日

場所:

参加ご希望の方はご連絡下さい。

Zoom でのご参加は Zoom 参加とお書きください。植松さんのアカウントを使用させていただきます。参加

ご希望の方に例会日近くになりましたら、Zoom 情報をお知らせいたします。

[mjmtokyo.tekna@gmail.com](mailto:mjmtokyo.tekna@gmail.com) まで出席メールを送ってください。皆さまのご参加をお待ちしています。

み恵に満ちたイースターをお迎えください。

